

◆理事会(五十音順)

|               |              |
|---------------|--------------|
| 磯村 尚徳         | 外交評論家        |
| オスタン・ガエル(理事長) | PMC株式会社代表取締役 |
| 大浦 紀彦         | 形成外科医        |
| 木内 昭胤         | 元駐仏日本大使      |
| ダヴィッド・パトリック   | 麻酔科医         |
| 寺島 左和子        | 形成外科医        |
| 原田 昌子         | 看護師          |
| フサディエ・フランソワ   | 形成外科医        |
| ブルト・アルノ       | 麻酔科医         |
| 山田 信幸         | 形成外科医        |
| 與座 聰          | 形成外科医        |

◆事務局(五十音順)

|            |                                  |
|------------|----------------------------------|
| 阿部 さやか     | ドネーションサービス                       |
| 小野寺 貴子     | ファンディング担当                        |
| 片岡 英彦      | 広報マネージャー                         |
| 熊澤 幸子      | ラオス小児医療プロジェクト/ニコロPROJECT担当       |
| 畔柳 奈緒      | 事務局長                             |
| 佐藤 知子      | 総務・経理マネージャー                      |
| 関 麻衣       | ファンディングマネージャー                    |
| 玉手 幸一      | 福島そうそうプロジェクト/岩手県医療システム復旧プロジェクト担当 |
| 中村 あすさ     | 東京プロジェクト担当                       |
| マジョリ・ミニヤック | 事務局長アシスタント/プロジェクトアシスタント          |

◆パートナー(五十音順-敬称略)

アサヒプリテック㈱/アスクル㈱/アメリカン・エキスプレス・インターナショナル・インコーポレイテッド  
 アンスティテュ エステدام ジャパン㈱/IKEBANA ATRIUM/いちよし証券㈱/㈱IHRインスティテュート  
 エールフランス航空/特活)エキスパートチャリティーアソシエーション/MDRTアカサ分会  
 LVH モエ ヘネシー・ルイ ヴィン・ジャバン㈱/キューピー㈱/クラランス㈱/グランド ハイアット東京  
 ㈱グリーティングライフ/クレディ・アグリコル銀行/ゲッティイメージズ ジャパン/合同会社  
 コヴィディエン/グループ ジャパン/国際協力NGOセンター(JANIC)/在日フランス商工会議所  
 社福)社会福祉事業研究開発基金/財)ジャストギビング/シャネル㈱/ジョンソン・エンド・ジョンソン㈱  
 新横浜プリンスベイ/㈱スマーフラニンング/特活)セカンドハーベストジャパン/綜合警備保障㈱  
 ソフトバンクモバイル㈱/大和リース㈱/チャリティーブラットフォーム/㈱デジタルステージ  
 テックウインド㈱/デロイトトーマツコンサルティング㈱/㈱トヨオートモールクリエイト  
 財)日本フランソワ一協会/日本理化学工業㈱/㈱農心ジャパン/㈱ノット  
 特活)バブリックリソースセンター/㈱パリーフックス/ファイサー・ホールディングス㈱/㈱フェリシモ  
 (独)福祉医療機構/富士フィルム㈱/ブジョ・シトロエン・ジャポン㈱/フランス料理文化センター  
 フレンチブルーミーティング実行委員会/㈱ベンチャーバンク ホットヨガスタジオLAVA  
 ホアレジャボ㈱/ホワイト&ケース法律事務所/本棚お助け隊/三井住友銀行ボランティア基金  
 財)明治安田厚生事業団/ヤフー㈱/ユーロコマジャパン㈱/ユナイテッドビーブル㈱/ユニ一㈱  
 横浜トヨペット㈱/リンベル㈱/ロレアル財団/ロンシャンジャパン㈱

**世界の医療団** (認定NPO法人)

特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン

Médecins du Monde Japon

〒106-0044 東京都港区東麻布2-6-10 麻布善波ビル2F  
 Azabu-Zenba Bldg, 2F, 2-6-10 Higashi-Azabu, Minato-ku, Tokyo  
 106-0044, Japan  
 Tel: +81-(0)3-3585-6436 Fax: +81-(0)3-3560-8073  
 E-mail: info@mdm.or.jp

**www.mdm.or.jp**



**世界の医療団**

2013年3月発行

**2012年度 活動報告書**



「誰もが治療を受けられる未来を。」

“POUR UN MONDE OÙ CHACUN PEUT ÊTRE SOIGNÉ.”



# 世界の医療団の使命は「治療」と「証言」です。

## 世界の医療団 日本の活動マップ



## 支援者の皆さんへ

ハイチでは地震から2年が経過した2012年1月、コレラなど感染症が再び蔓延の兆しを見せました。支援の手を緩めることはできず、活動継続のためのご支援を呼びかけました際、皆さまは快く応じてくださいました。また、東日本大地震からちょうど1年が経過した3月に、被災地で止むことのない医療支援へのニーズを受け、ご支援を呼びかけました際にも、皆さまは即座に応じてくださいました。そのおかげで震災直後から実施している「こころのケア」を中心としたニコロPROJECTをはじめ、岩手県と福島県の両県に亘り、3つの被災地支援活動を現在も継続中であることを御礼とともにまずここにご報告申し上げます。

一方、恒常に食糧不足に苦しむサヘル地域では、マリ北部で勃発した紛争を契機に更に深刻な食糧危機に陥っています。その緊急事態を受け、すぐに活動を強化することができたのは、皆さまお一人おひとりからのご支援のおかげです。また、カンボジアで1回、バングラデシュで2回、マダガスカルで1回のスマイル作戦を実施し、形成外科手術を受けられた158人の子どもたちやその家族に笑顔を咲かせることができました。そして、10月には、ラオスで、世界の医療団 日本初となる国外長期プロジェクトを開始することができました。

2012年度に頂戴いたしました全てのご支援に対し、ここに心から深く御礼を申し上げますとともに、これからも1つでも多くの命を救うため、1つでも多くの笑顔を届けるため、私たちは全力で邁進することここにお約束申し上げます。今後とも、私たちの活動に対し、変わらぬご支援いただけますようお願い申し上げます。

世界の医療団 日本  
理事長 ガエル・オスタン

## ◆ 2012年ボランティア派遣実績

医師8名(江口智明、清水雄介、寺島左和子、早川依里子、森岡大地、山田信幸、吉村圭、與座聰)、看護師5名(稻垣安沙、定宗純子、石原恵、鈴木彩乃、原田昌子)、非医療コーディネーター1名(原田麻穂)が海外医療支援活動に参加しました。延べ667名のボランティアが国内支援活動(岩手県と福島県での被災地支援活動、東京プロジェクト)に参加しました。

### [医療ボランティアの声] 小児科医 早川依里子

雄大な自然に恵まれたラオス。訪れる観光客は皆、メコン川の流れと呼応するように暮らす穏やかな人々に魅了されます。しかし、医療体制は未だ整っておらず、日本では当たり前と思われるような医療を受けることなく亡くなっていく多くの子どもたちがいるのも現実です。

お宮参り、七五三の由来『乳幼児の成長の節目を祝う』から読みとれるように、高い乳幼児死亡率は日本でも遠い昔の話ではありません。子どもが健やかに成長するためには多くのハードルを越えなければいけません。そのためには多角的に医療を向上させる必要があります。

2012年、世界の医療団日本では、皆様の温かいご支援のお陰により、ラオス小児医療支援プロジェクトを開始することができました。仮本部が行っている周産期医療プロジェクトと連携し、ラオスの乳幼児の死亡率を下げるために貢献していきます。子どもたちの笑顔が消えることなく、無事に成長し学校に入学できることを目標として、皆様に喜びのご報告ができるよう活動したいと思います。未来を照らす子どもたちの笑顔、それは私たち大人を笑顔にする源です。それを守るのが小児科医としての義務でもあると心に留めて…



# Niger/Mali/Burkina Faso ニジェール、マリ、ブルキナファソ

## 長期支援 (国境を越えた「サヘルプロジェクト」) プライマリヘルスケア\*



### 人間開発指数(2011)

(187か国中)  
186位/175位/181位

### 5歳未満の乳幼児死亡率

(出生1,000人中)  
160人/191人/166人

### 平均寿命

54.7歳/51.4歳/55.4歳

### 医師の数

(国民1万人あたり)  
0.2人/0.5人/0.6人

\*ニジェール/マリ/ブルキナファソの順

サヘルはアフリカのサハラ砂漠の南に東西に広がる帶状の地域で、南の熱帯アフリカと北のサハラ砂漠の境となる一帯を指します。半乾燥の気候で、近年では砂漠化が進んでおり、安定した収穫は望めません。『飢餓ベルト』とも呼ばれるこの地域では、開発の遅れ、貧困、食糧危機、医療危機などの問題が恒常的に発生しています。2012年初にマリ北部で勃発した紛争は、サヘルの状況の更なる悪化を招き、これまでにない程ひどい食糧危機に直面しました。世界の医療団は、すぐにサヘル地域への介入を強化し、緊急支援に着手し、多くの命を救いました。ニジェール・マリ・ブルキナファソ3カ国に亘り、住民のこころと体の健康の支えとなるべく、医療システム自体の改善を目指す、プライマリヘルスケアを土台とした長期的な支援活動を続けます。

# Laos ラオス

## 長期支援 (小児医療プロジェクト)



©Lam Duc Hien

### 人間開発指数(2012)

(187か国中)138位

### 5歳未満の乳幼児死亡率

(出生1,000人中)59人

### 平均寿命

67.5歳

### 医師の数

(国民1万人あたり)2.7人

メコン河沿岸に位置する小さな内陸国ラオスでは、アジアの中でもとりわけ高い乳幼児死亡率に苦しんでいます。医療基盤が整備されていれば治療可能な下痢や肺炎などで命を落としてしまう子どもたちが多いことと、住民に『病院へ行く』という習慣が根付いていないことに起因しています。ラオス保健当局から介入要請を受け、世界の医療団は2012年10月にチャンバサック県で小児医療プロジェクトを立ち上げました。県庁所在地パクセーを拠点に、郡部を巡回する看護師と、定期的に現地に派遣する小児科医師が連携して、小児死亡・疾病率を下げるための現地医療スタッフの知識・技術の向上、診療・健診目的での医療施設利用を促進するための村の住民への知識普及を目指します。まずは3ヵ年の計画でプロジェクトを進めます。

# Nepal ネパール

## 長期支援 (妊婦と子どもの命を守る母子保健)

世界の医療団は2007年以来、険しい山の中にいるシンドゥバルチョーク郡の12の村落で妊産婦の安全な出産の実現、新生児の死亡率を下げるための包括的なプロジェクトを展開しています。活動内容は、医療設備の拡充、出産キットなど物品の供給、無料診療の提供、現地医療スタッフのトレーニング、現地女性の出産に関する教育など多岐にわたります。このプロジェクトの特徴は、健康・保健・出産などの勉強会に人を集めるために、マイクロファイナンスを利用している点です。資金を借りようと集まってきた女性たちが、自然に健康・保健・出産の知識を習得することができ、結果的に妊産婦と新生児の命を守ることに繋がるのであります。マイクロファイナンスと医療支援の融合という試みは大きな成果を上げています。



©Cheryl Nemazie

### 人間開発指数(2012)

(187か国中)157位

### 5歳未満の乳幼児死亡率

(出生1,000人中)48人

### 平均寿命

68.8歳

### 医師の数

(国民1万人あたり)データなし(2012)  
2.1人(2011)

# DRC コンゴ民主共和国

## 長期支援 (ストリートチルドレン支援)

アフリカ大陸のほぼ中央に位置するコンゴ民主共和国は、開発という観点で考えた時、世界で最も貧しい国のです。増え続ける首都キンシャサの1000万人近いと言われている全人口のうち、約半数が15歳未満の若年層であると推定されており、ストリートチルドレンの数は2万人以上にも及びます。危険な路上で生活する少女の10人に8人は性的暴力を経験しています。世界の医療団は2004年以来、ストリートチルドレンケアセンター(BSS)の運営を通じ、路上で生活せざるをえない少女とその赤ちゃんに対し、総合的な支援活動を継続しています。BSSの収容能力を大きく超える数の少女を保護する日も少なくなく、特別なケアが必要な少女たちを分けて収容できるよう、新しいセンターの建設にも着手しています。



©Lam Duc Hien

### 人間開発指数(2012)

(187か国中)187位

### 5歳未満の乳幼児死亡率

(出生1,000人中)199人

### 平均寿命

48.4歳

### 医師の数

(国民1万人あたり)データなし(2012)  
2.1人(2011)

\*【プライマリヘルスケアとは?】国際会議で、「現実的で科学的妥当性があり社会的に許容可能な方法論と技術の基づいており、コミュニティにおける個人と家族が彼らの完全な参加を通して普遍的にアクセス可能で、自己決定の精神に基づいて発展のすべてのステージにおいてコミュニティと国が維持することが可能なコストで提供可能な、必要不可欠なヘルスケア】と定義されています。

# Haiti

## ハイチ 長期支援（大地震から3年）



©Veronique Burger Phanie

**人間開発指数(2012)**  
(187か国中)158位

**5歳未満の乳幼児死亡率**  
(出生1,000人中)87人

**平均寿命** 62.1歳

**医師の数**  
(国民1万人あたり)データなし

2010年1月にハイチを襲った大地震は22万人以上の死者を出し、首都ポルトブルースとその周辺地域に壊滅的な被害をもたらしました。地震から3年が経過ましたが、復興の歩みは遅く、衛生状況と医療へのアクセスの改善には未だに課題が残っています。実際、2012年に入ってからも再度コレラが猛威を奮う兆しを見せました。専門家による「ハイチのコレラは、あと2~3年は猛威を奮い続ける」との予想もあり、世界の医療団が臨時に開設しているコレラ対策センターにおけるコレラの予防と治療の支援の手を片時も緩めることはできません。石鹼の無料配布、手洗いの指導を通じてコレラの予防法を普及する活動の継続、適切な水分補給などコレラ患者に対する迅速な治療実施のため、ハイチでは長期に亘る人材と資材の投入が必要です。

# Cambodia

## カンボジア スマイル作戦

回数: 1回 期間: 1月14日 ~ 1月23日  
活動地域: パッタニバン 手術件数: 26件  
派遣ボランティア: 5名、うち日本人3名

手術を実施するだけでなく、現地のスタッフの育成と技術移転も「スマイル作戦」の目的の一つです。2007年以来続けてきたカンボジアのスマイル作戦では、遂にその日がやってきました。以下は、医療ボランティア森岡大地形成外科医からの嬉しい報告です。『2012年1月にカンボジアでの最後となるスマイル作戦を実施しました。「最後」というのは、「卒業」という意味です。今まで初日から長蛇の列を作っていた患者数は激減していました。聞くと、外国からの助けを借りずに自分たちでできることが増えた、病院幹部の若返りで職員のモチベーションが上がったとのこと。毎年赴き、現地医師や病院スタッフと共に働くことが彼らのスキルの向上に役立っていると実感した瞬間でした。自立可能なことを確認し、「最後のミッション」を終えられたことは私たちにとって、何事にも代え難い喜びであり、胸を張って支援者の皆様にご報告できます。』



**人間開発指数(2012)**  
(187か国中)139位

**5歳未満の乳幼児死亡率**  
(出生1,000人中)88人

**平均寿命** 63.1歳

**医師の数**  
(国民1万人あたり)2.3人

# Madagascar

## マダガスカル スマイル作戦

回数: 1回 期間: 7月28日 ~ 8月4日  
活動地域: アンタナナリボ市内 手術件数: 36件  
派遣ボランティア: 8名、うち日本人2名

『病院に到着すると、現地のニボ医師によって選出された手術対象患者が大勢待っており1日かけて診察が行われた。診察では今回の手術患者だけでなく、昨年手術を受けた患者のフォローアップも行う。術後の結果に喜びと安堵の表情の医師達と嬉しそうな患者達。こういう結果に向かうべく、初日の診察は術式や麻酔についてメンバー内で丁寧にこなされた。最優先は口蓋裂の手術で、10歳未満の口蓋裂患者が症例の大半を占めた。口蓋裂は言葉を覚える幼小期に手術することで発音への影響を最小限に抑えることが出来るが、現地医師や他団体ではその手術が困難なため、年に数回赴く世界の医療団のメンバーに託されている。患者との出会いは一期一会。そう思うからこそ限られた時間で一人でも多くの患者に手術のチャンスを得て欲しいという気持ちで向かい合っている。』

(看護師 石原恵)



**人間開発指数(2012)**  
(187か国中)151位

**5歳未満の乳幼児死亡率**  
(出生1,000人中)58人

**平均寿命** 66.7歳

**医師の数**  
(国民1万人あたり)1.6人

# Bangladesh

## スマイル作戦

回数: 2回 期間: 2月23日 ~ 3月2日、11月15日 ~ 11月24日  
活動地域: ダカ郊外、コックスバザール 手術件数: 96件  
派遣ボランティア: 計19名、うち日本人13名(延べ人数)

1996年以来、スマイル作戦に継続的に派遣され、バングラデシュミッションではリーダーを務める形成外科医 與座聰の声。『手術に関しては設備の乏しい場所がほとんどなので、うまくいったという満足感より無事に終わったという安堵感が主です。うれしいと言うよりほっとする感じ。特に途上国では生命に関わる疾患の治療が最優先されるので、外見の治療は顧みられない。だからこそ生きる質を高められる手術が必要と思っています。普通であることが財産なのです。一人の患者が満足することで、親しい者たちが、さらには周りのみんなが心から喜んでくれる。数字には決して出せないけど、溢れるほど感謝の気持ちを感じとることができます。そして、そのような状況を体験して、現地の若い医師達が形成外科に興味を抱き、我々のミッションを引き継いでくれたらと願っています。』



©Maho Harada

**人間開発指数(2012)**  
(187か国中)146位

**5歳未満の乳幼児死亡率**  
(出生1,000人中)52人

**平均寿命** 68.9歳

**医師の数**  
(国民1万人あたり)3.0人

# 日本 Japan

## ニコニコ PROJECT (岩手県大槌町・釜石市「こころのケア」活動)

2012年は、医療チームと運動チームが大槌町社会福祉協議会相談員らとの連携のもと、仮設集会所や地域の住宅地内の公民館などを巡回しながら「眠りのコツ」講座・「リラクセーション運動」を実施。不安や不調のセルフケアを住民の皆さんと実践しました。町内仮設を一巡した今も講座の内容を変え、地域の医療・運動関係者とともに支援活動を継続しています。世界の医療団は、東日本大震災発生直後に全国から派遣された支援班のチームの一つとして、岩手県精神保健福祉センターからの要請で支援活動に参加しました。刻々と変化する幅広い医療ニーズに合わせ、地域アルコール問題への取り組み支援、医療福祉従事者へのヨガ提供、運動指導に関する研修などを通じて地域医療保健体制の構築に貢献すべく活動範囲を広げてきました。

## 福島そうそうプロジェクト

福島県の相双地区(相馬市、南相馬市、双葉郡)で精神科病院・診療所がすべて閉鎖された状況を受け、2012年1月に設立された「相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会」に対し、世界の医療団は精神科医・看護師などの派遣、医療機器の提供、福祉車両の提供など複合的な支援を実施中です。『活動対象地域のひとつである新地町の仮設住宅では私達が開催しているサロン(月1回)をきっかけに、毎週自主的にお茶会が開催されるようになりました。それは私達がサロン活動を行う意味・必要性があったということであり、素直に嬉しく、住民の方にとって必要な場所となると思います。何かを始めようというパワーが住民の方々から出てきたという証でもあり、皆さんが少しずつ前へ進んでいるということではないかと感じます。サロン活動を通じて私にできるひとつひとつのが、皆さんの一歩一歩に繋がることを信じ、これからも支援活動を続けていきたいと思います。』(看護師神山友里の声)



ニコニコ PROJECT  
※首のストレッチ(於 仮設集会所)



福島そうそうプロジェクト



岩手県医療システム復旧プロジェクト



東京プロジェクト  
※駅周辺でのアトリーチの様子  
(精神科医 森川すいめい)

## 岩手県医療システム復旧プロジェクト

震災直後の津波により全半壊した岩手県内の2つの県立病院(県立大槌病院、県立山田病院)の仮設診療所に、X線CT装置の設置支援を実施しました。写真是完成した県立山田病院のCT建屋の様子です。2012年7月より2病院で、CT装置の本格稼働が開始しました。2012年7月から12月までの半年間で、大槌病院で425名、山田病院で306名、計延べ731名の患者がCT装置による診断を受けています。

## 東京プロジェクト

専門家による調査で、ホームレス状態にある人のうち6割に何らかの精神症状があることが判明しました。その現状を受け、日本国内のホームレス状態にある人々に対する医療・保健・福祉へのアクセスの改善、地域生活支援、多くの人にこの現状を伝えること、状況を改善すべく政策決定に携わる人々へ訴えかけるアドボカシー活動が急務の課題であると判断し2010年に世界の医療団は「東京プロジェクト」(ホームレス状態の人々の精神と生活向上プロジェクト)を立ち上げ3年が経過しました。今までいかなる支援にもつながらず路上で孤立していた方たちが徐々に地域で安定し、私たちの支援から「卒業」する方たちも出てきました。2012年に入り、厚労省への働きかける機会を多く得ました。またこのプロジェクトへの関心の高さを受け、2013年3月初には「東京プロジェクト報告会」も予定しています。

|              |                 |
|--------------|-----------------|
| 人間開発指数(2012) | (187か国中)12位     |
| 5歳未満の乳幼児死亡率  | (出生1,000人中)3人   |
| 平均寿命         | 83.4歳           |
| 医師の数         | (国民1万人あたり)21.4人 |

# 証言活動

## イベント(抜粋)

### ■ブース出展

アースガーデン・夏・秋、アースデイ東京/名古屋、エコライフェア、グローバルフェスタ、よこはま国際フェスタ、アフリカ・ヘリテッジフェスティバル、フレンチブルーミーティング 他



### ■講演・シンポジウム・セミナー

岩手大学、学芸大学、帝京大学、沖縄県立球陽高等学校、愛知教育大学附属岡崎中学校、公益社団法人日本フィランソロピー協会 他



### ■チャリティイベント

支援者の集い



### ■活動報告会

### ■ユニーク感謝祭

© 井澤一憲

## メディア(抜粋)

### 親善大使 滝川クリスチさん



親善大使就任2年目を迎めました。昨年はACのナレーションなどで広報活動にご協力させていただきましたが、今年は、できれば現場レポートなどもしたいと考えております。フランス大使館から藝術文化勳章(シュバリエ)の叙勲を受けたこともあり、よりフランスへ、世界へと活動の幅を広げていけるような年にしたいです。

### <テレビ・ラジオ>

- NHK/NHK教育【2012/2/28「視点・論点」「生きづらさを支えるということ」  
(被災地での活動について 森川すいめい医師)】
- BBC RADIO【2012/3/8 ニココロPROJECT(森川すいめい医師)】
- テレビ東京【2012/4/13「地球VOCE(ウォーチェ)」(スマイル作戦 与座聴医師)】
- NHK岩手【2012/6/17 ニュース「岩手県医療システム復旧プロジェクト開始】

### <新聞>

- 読売新聞【2012/6/17「岩手県医療システム復旧プロジェクト開始】
- 読売新聞【2012/7/3「東京プロジェクト】
- 朝日新聞【2012/7/7「スマイル作戦」(森川大地医師)】
- 雑誌>
- 現代思想【2012/3/1「東北被災者の心のケア」(森川すいめい医師)】
- ピッグイシュー【2012/7/1 東京プロジェクト(森川すいめい医師インタビュー)】
- France Japon Eco【2012/7/24 東京プロジェクト(中村あずさインタビュー)】
- AERA(アエラ)【2012/9/17 「ニココロPROJECT/アルコール依存症」(森川すいめい医師インタビュー)】

## キャンペーン

### ■1000人のスマイル作戦キャンペーン

形成外科手術「スマイル作戦」を受ける子どもたちやその家族に、日本から笑顔の写真と励ましのメッセージを贈る「1000人のスマイル作戦キャンペーン」を2011年に引き続き開催しました。2012年は計39の施設・イベントにご協力いただき、述べ43回開催することができました。2013年からは、「ラオス小児医療プロジェクト応援キャンペーン」が新たに加わり、さらに多くの国・地域の子どもたちに笑顔を届けるキャンペーンになります。



©Maho Harada

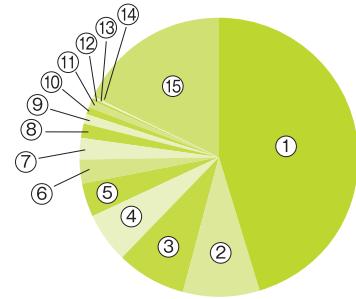
©Lam Duc Hien

# 2012年度決算

世界の医療団は、1名の監事による会計及び業務の内部監査と、外部の独立した公認会計士による会計監査を毎年度受けています。

| 収入(単位:日本円) | 183,803,171 | 支出(単位:日本円)        | 207,069,898 |
|------------|-------------|-------------------|-------------|
| 寄付         | 106,155,875 | プロジェクト(医療支援+証言活動) | 153,226,755 |
| 民間助成金      | 76,311,026  | 募金費               | 42,467,231  |
| 収益事業       | 816,000     | 管理費               | 11,375,912  |
| 謝礼 ほか      | 350,270     |                   |             |
| 会費         | 170,000     |                   |             |

### ◎プロジェクト費内訳



|                              |       |                      |       |
|------------------------------|-------|----------------------|-------|
| ①東日本大震災被災地支援プロジェクト           | 45.5% | ⑨リベリア/母子保健支援プロジェクト   | 1.2%  |
| ②東京プロジェクト(ホームレス)             | 8.8%  | ⑩アンゴラ/母子保健支援プロジェクト   | 0.9%  |
| ③サハラ/母子保健・プライマリヘルスケア支援プロジェクト | 8.0%  | ⑪ソマリア/母子保健支援プロジェクト   | 0.8%  |
| ④スマイル作戦                      | 5.9%  | ⑫ニジェール/母子保健プロジェクト    | 0.4%  |
| ⑤ラオスプロジェクト                   | 4.0%  | ⑬マダガスカル/心臓外科支援プロジェクト | 0.4%  |
| ⑥ネパール/母子保健支援プロジェクト           | 2.8%  | ⑭シリア/緊急支援プロジェクト      | 0.1%  |
| ⑦コンゴ/ストリートチルドレン支援プロジェクト      | 2.5%  | ⑮証言活動*               | 17.3% |
| ⑧ハイチ/緊急支援プロジェクト              | 1.4%  |                      |       |

\*ニュースレター発行、MDMの活動紹介イベント・写真展など開催、NGOイベントへの参加等

※2012年度は収入と支出に差異がありますが、これは、2011年度に「東日本大震災被災地支援」のために頂戴した寄付を2011年度に使い切るのではなく、2012年にも継続して使用させていただいたためです。

世界の医療団は「認定NPO法人」として国税庁より認定されています。

世界の医療団へのご寄付は税制上の優遇措置を受けることができます。

## 政策提言(アドボカシー)

・厚生労働省主催 ホームレスの実態に関する全国調査(生活実態調査)委員に就任 調査デザインや報告書の作成に、東京プロジェクトの現場から意見を反映させた。

・豊島区副区長、生活福祉課課長係長との対談

東京プロジェクトの実態と実績報告を行い、連携の在り方について協議した。

・北社協地域福祉活動計画改定作業部会員に就任。(2012年12月～2013年12月まで)  
東京都北区の社会福祉協議会の活動計画策定に携わり、東京プロジェクトの現場から地域支援に関して提言を行った。

